

教科	科目	使用教科書・副教材	単位数	対象学年・組
国語	現代の国語	『現代の国語』（筑摩書房）	2 単位	第 1 学年 A ～ H 組

科目の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会を生き抜くうえで必要な国語の知識や技能を習得することができる。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わることでものの見方・感じ方・考え方を深める態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・聞	書	読					
1 学 期	1 他者へ問いかける力をつけることで対話力を伸ばす ・言葉の特徴や使い方を学ぶことで、自己の考えを深め、伝える力を伸ばすことができる。 ・言葉のもつ認識や思考を支える働きを踏まえ、他者へと問いかけるためにさまざまな視点を持つ対話を目指す。 ・教材を手がかりに、言葉を介した他者との関係を豊かにし、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとする。	・川上弘美「境目」 ・斎藤亜矢「サイエンスの視点、アートの視点」 ・苫野一徳「一般化のワナ」 ・一人 1 台端末の活用 等	○			・本文中の表現に着目し、言葉のもつ認識、思考を支える力を理解している。 ・グループ内での対話をより深めるために、正確さ、わかりやすさ、適切さに留意した表現や言葉遣いについて理解し、使用しようとしている。 ・さまざまな視点から「問い」を立てることを通して、自己の考えを認識し、他者に説明しようとしている。 ・自己の主張をする際に、論拠となる情報、また個別の情報と一般化された情報との関係などについて理解している。 ・対話の内容に応じて、実社会から適切な話題を決め、端末なども使用して、様々な視点から情報を収集、整理して伝え合う内容を検討、精選することができる。 ・教材の内容に関心を持ち、積極的に発表し、ほかの人の発表を注意深く聞き取ることで、自己のものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。	○	○	○	4
	2 情報を正確に読み取ることで、論理的な内容や構成、展開を理解する。 ・評論文の読解を通じて、語句や語彙の特色、論理の展開など文章の効果的な組み立てを理解する。 ・評論文の読解を通じて、「ことば」や、現代社会への認識を高めることで、自己の表現を工夫することができる。 ・現代社会を表す「ことば」や図表などさまざまな情報に触れることで、関心の幅を広げようとする。	・内田樹「ことばとは何か」 ・黒崎政男「デジタル社会」 ・中屋敷均「システムと変異」 ・一人 1 台端末の活用 等	○		○	・本教材に出てくるさまざまな術語を複数の辞書を用いて調べること、辞書的な意味と異なる筆者による語句の使用の仕方や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解するとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ・評論文の特性を理解し、図表などの資料の用い方が内容や構成に与える影響を理解し、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握することができる。 ・筆者の主張に関心を持ち、身近な具体例を取り上げ自分の意見をグループ内で発表することで、より多様な視点を得ようとしている。 ・本時の学習活動の中で文章を書いたり発表したりする際に、実社会における具体例や比喻を用いたり、本時で学んだ推論の仕方を理解して使っている。 ・教材の内容に関心を持ち、積極的に発表し、ほかの人の発表を注意深く聞き取ることで、自己のものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。	○	○	○	7
	中間考査						○	○		1
	3 文章構成や具体例の働きを理解し、効果的な文章表現を理解する。 ・言語行為や身体など身近なものを用いた表現構造とその効果を理解する。 ・本文をもとに、実社会の中から適切な題材を探し、妥当性や信頼性などを吟味して自分の主張を明確に表す。 ・筆者の主張の意味を考えることで、自分の考えの幅を広げようとする。	・中村桃子「ことばがつくる女と男」 ・鷲田清一「身体、この遠きもの」 ・松村圭一郎「贈り物と商品の違い」 ・一人 1 台端末の活用 等		○	○	・学習活動の中で文章を書いたり、発表したりする際に、各部分と全体の構成との関係を踏まえ、効果的な組み立てや表現ができる。 ・読み手の理解が得られるように、論理の展開や情報の分量、示し方など重要度の違いがわかりやすいように表現の工夫をすることができる。 ・自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を工夫している。 ・言葉や身体と自己のあり方、物を通して社会を捉えるなど、本教材の内容に関心を持ち、多様な視点を持つことで、ものの見方や感じ方、考え方を深めようとしている。	○	○	○	9
	4 資料やデータの読み取り方を学び、正しく効果的に活用する。 ・資料やデータの読み方扱い方を学び、効果的に使用することができる。 ・目的に応じて文章や図表などの含まれている情報を相互に関連づけながら内容や書き手の意図を解釈し、文章の構成や論理展開などについて評価することで、自分の考えを深める。 ・推論の学習に興味関心を持って学習し、他者へと働きかけようとする。	・堀正岳「わかっていることのないこと」 ・シートン「兎が自分でつづって語る生活の話」 ・一人 1 台端末の活用 等	○	○	○	・本教材を通して、情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うことができる。 ・評論文や実用文という文章の特性を踏まえ、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握することができる。 ・筆者の推論過程を順序立てて理解説明することで、推論の仕方を理解し自分の文章に使うことができる。 ・自分の目的に応じて、さまざまな資料やデータを利用して情報を相互に関連付けながら、読み手にわかりやすく自分の考えを説明することができる。 ・情報を整理したり活用したりする学習の内容に関心を持ち、積極的に自分の考えを記述し発表するとともに、他者の考えにも耳を傾け、自己の世界を広げようとしている。	○	○	○	4
	期末考査						○	○		1
2 学 期	5 話し合いから議論へと、個人的体験から社会的問題へと話題を発展させる。 ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を理解し適切に使うことができる。 ・目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を求め、様々な観点から	・ブレイディみかこ「誰かの靴を履いてみること」 ・宇野重規「〈私〉時代のデモクラシー」 ・一人 1 台端末の活用 等	○	○		・本文中の会話文と描写が果たしている表現効果を理解している。 ・過去に体験した出来事の中から、話し合いの目的や場に適した話題を取り上げるだけでなく、実社会の中からも適切な話題を探し、様々な観点から伝え合う内容を検討し、表現の工夫をしながら発表することができる。 ・「近代社会」「デモクラシー」について、調べたこと考えたことをグループ内で発表し、話し合うことで筆者の主張をより深く理解しようとしている。	○	○	○	4

		考察、整理して伝え合う内容を検討することができる。 ・論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話し合いを発展させようとする。				・論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 ・実社会との関わりを考えるための読書の意義と効果について理解を深めている。 ・教材の内容に関心を持ち、積極的に発表するとともに、他者の意見に耳を傾け、さまざまな視点から考察しようとしている。						
	6	さまざまな情報を関連づけながら筆者の主張を読み解く。 ・評論文の特徴を踏まえ、叙述を基に的確に捉え、要点や要旨を把握することができる。 ・筆者の主張とその論理展開からさまざまな情報とその意味、関係性を理解する。 ・本教材が示す内容が現代の私たちに持つ意味を考える。	・若林幹夫「魔術化する科学技術」 ・野矢茂樹「未来は存在しない」 ・岩井克人「マルジャーナの知恵」 ・一人1台端末の活用 等		○	○	・意味段落の関係を理解することで、文章の効果的な組み立てへの理解を深め、要約文や意見文に使うことができる。 ・文章中の引用の仕方や出典の示し方、修辞や構成、論理展開上の工夫や述べ方について理解を深めている。 ・評論文の内容や構成、論理の展開などについて叙述を的確に捉え、要旨や要点を把握することができる。 ・本文を読解するために前提となる情報を理解することで、文章中の情報が単なる個別のデータではなく、筆者の主張を支える根拠となる一般化された情報として扱われていることを理解する。 ・筆者の主張を基にして、実社会の場へと興味関心の幅を広げ、インタビューするなどの活動を通じてグループ内での議論、発表に生かしている。	○	○	○	9	
	中間考查							○	○		1	
	7	多様な観点からさまざまな情報を整理し考察する力を深める。 ・文中の情報を整理し、その関係性から主張を読み取ることができる。 ・さまざまな観点から情報を収集、整理して社会的な話題に関する議論を行う。 ・話し合いを通して学んだことを他者と共有しようとする。	・国谷裕子「ポスト真実時代のジャーナリズム」 ・長田弘「会話と対話」 ・伊藤亜紗「記憶する体」 ・一人1台端末の活用 等		○	○	・情報から真実・事実とみなされるものを抜き出し、なぜそのように判断したのか、基準を説明できている。 ・情報の妥当性やシイラ異性の吟味の仕方について理解を深めることができる。 ・場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように工夫することができる。 ・論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり、深めたりすることができる。 ・論点を共有し、話し合いの目的や状況に応じて表現や進行の仕方などを工夫することで、話し合いの仕方や結論に至る道筋を明確にすることができる。	○	○	○	7	
	8	目的を意識した文章表現を目指す。 ・二項対立など文章表現のための工夫を理解し、使用することができる。 ・論理展開に留意し、さまざまな情報を関連づけ、読み手の理解が得られるよう工夫する。 ・読み手を意識することで自分の課題を捉え直す。	・山田登世子「贅沢の条件」 ・堀江敏幸「瓦を解かないこと」 ・一人1台端末の活用 等		○	○	○	・目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を求め、集めた情報を整理し、妥当性や信頼性を吟味して、自分の伝えたいことを明確にしている。 ・読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えた上で、文章の構成や展開を工夫することができる。 ・自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、目的や意図に応じて書かれているかなどを確認することで、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特徴や課題を捉えなおしたりしている。	○	○	○	6
	期末考查							○	○		1	
3 学 期	9	論理的な文章の組み立てを理解する。 ・根拠の適切な示し方や文章構成について理解する。 ・筋道を立てて論述する仕方を学ぶ。 ・説得力ある文章表現に積極的に取り組む。	・國分功一郎「来るべき民主主義」 ・小坂井敏晶「主体という物語」 ・一人1台端末の活用 等			○	○	・筋道を立てて論述する仕方や、仮説を立てることを通して、言葉には認識や思考を支える働きがあることを理解している。 ・本教材から読み取ったことを基にして、グループ内で論点を共有し、質問、説明し合うことによって、理解を深めている。 ・説得力ある文章になっているか、根拠の示し方などを検証するとともに、適切な言葉遣いなど文章表現の工夫をしている。 ・読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章が論理的な組み立てになっているかを確認し、社会的問題へと論点を広げたり深めたりしていこうとしている。	○	○	○	7
	10	複眼的な視点から文章を読み解く。 ・文化や近代など、現代社会の問題を考察する基礎的語彙を習得する。 ・さまざまな視点から問題を取り上げることで、私たちに求められる課題を明確にする。 ・現代社会を象徴する言葉について関心をもつ。	・岡真理「開かれた文化」 ・大澤真幸「リスクと近代社会」 ・西谷修「名づけと所有」 ・一人1台端末の活用 等		○	○	○	・自分の属する文化、社会に目を向けることで、対象との関係を自覚し、意識的に多様な視点を持つようとしている。 ・本教材に用いられている具体例とその意味するところを一般化する取り組みを通じて、現代社会の問題点をグループ内で共有し、ほかの人の意見を参考にしながら、自己の考えを広げたり深めたりしている。 ・論理の展開を予想しながら、聞いたり読んだりすることで、話の内容や構成、表現の仕方を評価し、自己の考察に生かそうとしている。 ・現代社会に生きる私たちに求められていることは何か、本文を踏まえた上で考察を深めている。 ・現代社会を象徴する言葉に着目し、グループ内で話し合うことによって、ことばの力への興味関心を持ち、読書の幅を広げていこうとする。	○	○	○	8
	学年末考查								○	○		1
											合計	
											70	

評価の方法：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
定期考查を中心としつつ、提出物、小テスト、発表等を見て、総合的に判断する。	定期考查を中心としつつ、提出物、小テスト、発表等を見て、総合的に判断する。	授業への取り組み、提出物、小テスト、発表への取り組みやその内容等を見て、総合的に判断する。

教科	科目	使用教科書・副教材	単位数	対象学年・組
国語	言語文化	『言語文化』（数研出版）	3 単位	第 1 学年 A ～ H 組

科目の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域		評価規準	知	思	態	配当 時数
			書	読					
1 学 期	1 言語文化と古文・漢文	「宇治拾遺物語」 漢文入門			○				8
	2 言語文化と近現代文	芥川龍之介「羅生門」 「今昔物語集」			○				9
	中間考査			○		○	○		1
	3 古典の広がり読む	「伊勢物語」 「大和物語」			○				10
	4 故事成語と漢文	朝三暮四「列子」 狐借虎威「戦国策」 漁父之利「戦国策」			○				10
	期末考査			○		○	○		1
2 学 期	5 「語り」を読む	「土佐日記」 「竹取物語」 志賀直哉「城之崎にて」			○				10

	を深めることができる。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	一人1台端末の活用等			深めている。 ・積極的に古文の日記や物語、近代小説を、「語り」の意図という視点で読み解こうとしている。				
	6 歴史の中の人間 ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解することができる。 ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	先従隋始「十八史略」 鶏口牛後「十八史略」 一人1台端末の活用等		○	・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・積極的に歴史的な背景を踏まえた上で、文章を解釈しようとしている。	○	○	○	10
	中間考査			○		○	○		1
	7 古人の価値観を探る ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。 ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	「枕草子」 「徒然草」 雑説「漢昌黎集」 一人1台端末の活用等		○	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。 ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。 ・積極的に文章に描かれた古人のものの考え方、価値観を探り出し、自分の考えを深めようとしている。	○	○	○	10
	8 韻文と言語文化 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解し、我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解することができる。 ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈し、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	「万葉集」 「古今集」 「新古今集」 漢詩 近現代の短歌 一人1台端末の活用等		○	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解し、我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈し、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・言語文化としての韻文を、修辞や背景を踏まえて積極的に解釈しようとしている。	○	○	○	10
	期末考査			○		○	○		1
3 学 期	9 言語文化を創造する ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ・自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫することができる。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	短歌を創作する 古典を引用して随筆を書く 作品を鑑賞し合う 一人1台端末の活用等		○	・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。 ・これまでの学びを生かして、積極的に短歌や随筆の創作をし、鑑賞し合っている。	○	○	○	8
	10 時代と文学・時代と思想 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解し、我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解することができる。 ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	「平家物語」 「論語」 「孟子」 田宮虎彦「沖縄の手記から」 一人1台端末の活用等		○	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解し、我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・文学や思想が生まれた時代について理解し、積極的に解釈を深めようとしている。	○	○	○	15
	学年末考査			○		○	○		1
									合計
									105

評価の方法：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
定期考査を中心に、提出物、小テスト、発表等	定期考査を中心に、提出物、小テスト、発表等	授業への取り組み、提出物、小テスト、発表等

教科	科目	使用教科書・副教材	単位数	対象学年・組
国語	文学国語	『文学国語』（筑摩書房）	2 単位	第 2 学年 A～H 組

科目の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
「言語文化」「現代の国語」で身につけた知識や技能を生かし、言葉のもつ想像や心情を豊かにする働きや、表現技法について体系的に理解し使うことができるようにする。	作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を広げたり、深めたりすることができるようにする。	一つの題材に関連する複数の作品を基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めるとともに、自分自身の文章全体を捉え直し、整えることで自ら課題を発見し、解決しようとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域		評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			読	書					
1 学 期	1 ことばから広がる世界 ・身近な題材から問題を発見する。 ・現実を多面的に捉える想像力を養う。	・随想、評論（『情報の彫刻』原研哉 等） ・一人 1 台端末の活用 等	○	○	・文章を読むことで、身近な題材から問題を発見する力を養おうとしている。 ・さまざまな観点から書かれた文章を読むことで、現実を多面的に捉える想像力を養おうとしている。	○	○	○	6
	2 物語との出会い ・自我を外界へと開くことばの力に触れることで、豊かな認識へと導く。 ・小説を読み、情景や心情を正確に読み取ることで、豊かな表現と語彙を学ぶ。	・評論、随想、小説（『山月記』中島敦 等） ・一人 1 台端末の活用 等	○	○	・自我を外界へと開くことばの力に触れることで、豊かな認識へと自らを導こうとしている。 ・小説を読み、情景や心情を正確に読み取ることで、豊かな表現と語彙を学び、自己のものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。	○	○	○	6
	中間考査					○	○		1
	3 背後にあるメッセージ ・近代の日本文化論を読み味わい、ものの見方、考え方を理解する。 ・作品の文化的背景、その特質を理解する。	・随想、評論（『ラムネ氏のこと』坂口安吾 等） ・一人 1 台端末の活用 等	○	○	・近代の日本文化論を読み味わい、ものの見方、考え方を理解し、自己のものの見方、感じ方、考え方を広げようとしている。 ・作品の文化的背景、その特質を理解することで、他文化を理解し、作品解釈に生かそうとしている。	○	○	○	8
	4 現実を揺さぶる想像力 ・他者の視点からものと言葉のかかわりについて考えるとともに、認識の多様性について考えを深める。 ・自らの思考の道筋をたどり、世界観を構築する、感覚や考え方を表す言葉や表現を探す。	・随想、評論（『記号論と生のリアリティ』立川健二 等） ・一人 1 台端末の活用 等	○	○	・他者の視点からものと言葉のかかわりについて考えるとともに、認識の多様性について考えを深めようとしている。 ・自らの思考の道筋をたどり、世界観を構築することや、感覚や考え方を表す言葉や表現を模索し、表現力を高めようとしている。	○	○	○	4
	期末考査					○	○		1
2 学 期	5 自己と向き合う ・「自己」と向き合い、「自己」を追い求める近代小説の作品を通して、近代及び、日本近代文学について考察を深める。	・小説（『こころ』夏目漱石 等） ・一人 1 台端末の活用 等	○	○	・「自己」と向き合い、「自己」を追い求める近代小説の作品を通して、近代及び、日本近代文学について考察を深めようとしている。	○	○	○	7
	6 過去との対話 ・過去の資料や記録を読み解くことで現在の社会のありようを捉え、自分の考えを深める。 ・自らの思考の道筋をたどり、世界観を構築する、感覚や考え方を表す言葉や表現を探す。	・評論、随想（『論語—私の古典』高橋和己 等） ・一人 1 台端末の活用 等	○	○	・過去の資料や記録を読み解くことで現在の社会のありようを捉え、自分の考えを深めようとしている。 ・自らの思考の道筋をたどり、世界観を構築することや、感覚や考え方を表す言葉や表現を模索し、表現力を高めようとしている。	○	○	○	6
	中間考査					○	○		1

	7 世界観を築く ・表現の独創性、豊かな思考の展開を読み取り、自らの表現・構成に生かす。 ・独自の味わい、深みを読み取る。	・随想、評論（『未来をつくる言葉』ドミニク・チェン 等） ・一人1台端末の活用 等	○	○	・表現の独創性、豊かな思考の展開を読み取り、自らの表現・構成に生かそうとしている。 ・その文章独自の味わい、表現の深みを読み取ろうとしている。	○	○	○	5
	8 調べとリズム ・日常の言葉と非日常が交錯する中で作り出される表現に着目する。 ・詩や俳句の鑑賞を通して豊かな語彙、表現を理解する。	・詩、短歌、俳句 ・一人1台端末の活用 等	○	○	・日常の言葉と非日常が交錯する中で作り出される表現に着目することで、韻文特有の表現に親しみ、理解を深めようとしている。 ・詩や俳句の鑑賞を通して豊かな語彙、表現を獲得しようとしている。	○	○	○	3
	9 思考の道筋をたどる ・柔軟な思考、新たな表現に触れ、自らの世界観を刷新する。 ・「社会」への多様な視点を理解する。	・随想、評論	○	○	・柔軟な思考、新たな表現に触れ、自らの世界観を刷新しようとしている。 ・「社会」への多様な視点を理解し、自己と他者の関係を見つめ直し、文章の解釈や、自身の文章表現に生かそうとしている。	○	○	○	5
	期末考查					○	○		1
3 学 期	第二部 1 物語が生まれる場所 ・近代を代表する日本文化論、日記を読み味わい、ものの見方、考え方を理解する。 ・作品の文化的背景、その特質を理解する。	・随想、評論（『陰翳礼讃』谷崎潤一郎 等） ・一人1台端末の活用 等	○	○	・近代を代表する日本文化論、日記を読み味わい、ものの見方、考え方を理解し、自己のものの見方、感じ方、考え方を広げようとしている。 ・作品の文化的背景、その特質を理解することで、他文化を理解し、作品解釈に生かそうとしている。	○	○	○	6
	2 交差するドラマ ・小説作品がもつ固有の表現、文体のもつ力を味わい、考察する。 ・今までの文学作品の学習を踏まえ、作品成立の背景や他の作品との関係を考察し、作品の解釈を深める。	・小説（『舞姫』森鷗外 等） ・一人1台端末の活用 等	○	○	・小説作品がもつ固有の表現、文体のもつ力を味わい、考察を深めようとしている。 ・今までの文学作品の学習を踏まえ、作品成立の背景や他の作品との関係を考察し、作品の解釈を深め広げようとしている。	○	○	○	9
	学年末考查					○	○		1
									合計 70

評価の方法：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
定期考查を中心に、提出物、小テスト、発表等	定期考查を中心に、提出物、小テスト、発表等	授業への取り組み、提出物、小テスト、発表への取り組みやその内容等

教科	科目	使用教科書・副教材	単位数	対象学年・組
国語	古典探究	『古典探究 古文編』(第一学習社) 『古典探究 漢文編』(第一学習社)	3 単位	第 2 学年 A ～ H 組

科目の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
古典を学ぶことを通して、生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、わが国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができる。	古典を学ぶことを通じて、先人のものの見方、感じ方、考え方に触れ、自分の思いや考えを広めたり、深めたりするとともに、自らの思索を表現できる力を養うことができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、現代に至る多様な言語文化に触れることで、生徒自らが新たな興味・関心へと自分自身の意識を高めていくことで、主体的に学習を進めることができる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域		評価規準	知	思	態	配当 時数
			書	読					
1 学 期	1 古文・漢文の基本を確認する ・ 古典の世界に親しみ、古典を読むために必要な、基本的文法事項や重要な句法、重要な基本語彙など既習の学習内容を活用することができる。 ・ 文章の種類に応じて、内容や構成を的確に捉え、文脈に沿った現代語訳ができる。 ・ 言葉の働きについて認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	・ 説話「宇治拾遺物語」 「十訓抄」 ・ 故事・逸話「鼓腹撃壤」「画竜点睛」「両頭蛇」 一人 1 台端末の活用等		○	・ 古典の世界に親しみ、古典を読むために必要な、基本的文法事項や重要な句法、基本的語彙など、一学年で学習した内容を確認、理解した上で、古典学習に活用している。 ・ 文章の種類に応じて、内容や構成、展開を的確に捉えることで、文脈に沿った的確な現代語訳をしている。 ・ 登場人物の行動や心理を読み取り、説話や故事・逸話のおもしろさを味わっている。	○	○	○	8
	2 随筆・故事逸話への理解を深める ・ 古典における随筆の読解を通じて、作者の考え方や文学理念を理解することができる。 ・ 故事・逸話を読解することで、現在、故事成語として通用している意味も理解することができる。 ・ 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈し、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。 ・ 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	・ 随筆「徒然草」「方丈記」 ・ 故事・逸話「黔之驢」「漱石枕流」「塞翁馬」 一人 1 台端末の活用等		○	・ 古典における随筆の読解を通じて、作者の考え方や文学理念を理解している。 ・ 故事・逸話を読解することで、重要句形や基本語彙を習得し、我が国の故事成語と、背景となった漢文の内容とを比較しながら解釈しようとしている。 ・ 言語表現には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・ 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈し、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。	○	○	○	9
	中間考査			○		○	○		1
	3 和歌や歌物語について理解を深める ・ 和歌、物語における和歌の意味を理解することができる。 ・ 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	・ 三大和歌集 ・ 物語「伊勢物語」 一人 1 台端末の活用等		○	・ 和歌、物語における和歌の意味を考察することで、情景や心情を理解している。 ・ 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 ・ 積極的に後人の付け加えた注記について分析し、粘り強く地の文と和歌の関係性を読み解こうとしている。	○	○	○	10
	4 作り物語や漢詩、漢文の「文章」について理解の幅を広げる ・ 敬語など基本的文法事項を理解することで、登場人物を整理し、物語の内容や情景、構成や展開を的確に理解し、現代語訳することができる。 ・ 「作り物語」というジャンルについて、既習の歌物語との表現上の違いを理解できる。 ・ 漢詩の決まりを理解し、作品に表現された情景や心情を読み取るとともに、重要句形や重要語彙について計画的に学習することができる。 ・ 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価し、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉え、また作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえた上で、解釈を深めることができる。 ・ 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解することができる。 ・ 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。 ・ 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	・ 物語「竹取物語」 ・ 漢詩 近体詩 日本の漢詩文 ・ 文章「雑説」 一人 1 台端末の活用等		○	・ 敬語など基本的文法事項を理解することで、登場人物を整理し、物語の内容や情景、構成や展開を的確に理解し、現代語訳している。 ・ 「作り物語」というジャンルについて、既習の歌物語との表現上の違いを理解している。 ・ 漢詩の決まりを理解し、作品に表現された情景や心情を読み取るとともに、重要句形や重要語彙について計画的に学習している。 ・ 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価し、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉え、また作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえた上で、解釈を深めている。 ・ 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 ・ 「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。	○	○	○	10
	期末考査			○		○	○		1

2 学 期	5 平安朝女流文学（随筆）や史伝の世界を理解する ・『枕草子』の作品世界に親しむことで、宮廷文化や平安朝の美意識を理解することができる。 ・文学性の高い『史記』の表現を的確に把握しながら、重要句形や重要な基本語彙を丁寧に読み解くことで、場面や人物の心情を理解することができる。 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉え、また作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈し、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	・随筆「枕草子」 ・史伝「史記」 一人 1 台 端末の活用等		○	・『枕草子』の作品世界に親しむことで、宮廷文化や平安朝の美意識を理解している。 ・文学性の高い『史記』の表現を的確に把握しながら、重要句形や重要な基本語彙を丁寧に読み解くことで、場面や人物の心情を理解している。 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉え、また作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈し、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・積極的に歴史的な背景を踏まえた上で、文章を理解し、的確に解釈しようとしている。	○	○	○	10
	6 日記文学や「歴史物語」に親しむ。史伝の世界を理解する ・平安朝から鎌倉期にかけて、代表的な女流日記作品、『大鏡』を読解することで、「日記文学」「歴史物語」という文学ジャンルの特徴を理解し、さまざまな表現方法に理解を深めることができる。 ・史伝の時代背景を把握し、人間の生き方や運命、歴史を動かす力について考察することができる。 ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	・日記「更級日記」「十六夜日記」 ・物語「大鏡」 ・史伝「史記」 一人 1 台 端末の活用等		○	・平安朝から鎌倉期にかけての代表的な女流日記作品を読解することで、「日記文学」という文学ジャンルの特徴を理解し、さまざまな表現方法に理解を深めている。 ・史伝の時代背景を把握し、人間の生き方や運命、歴史を動かす力について考察している。 ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・積極的に歴史的な背景を踏まえた上で、文章を解釈し、的確に解釈しようとしている。	○	○	○	10
	中間考査			○		○	○		1
	7 源氏物語・史伝の作品世界を理解する ・『源氏物語』の作品世界に親しみ、「物語」を構成するさまざまな表現を理解するとともに、基本的な文法事項、基本重要語彙を確認、理解することができる。 ・史伝の時代背景を把握し、人間の生き方や運命、歴史を動かす力について考察することができる。 ・漢文を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。 ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	・物語「源氏物語」 ・史伝「史記」 一人 1 台 端末の活用等		○	・『源氏物語』の作品世界に親しみ、「物語」を構成するさまざまな表現を理解するとともに、基本的な文法事項、基本重要語彙を確認、理解している。 ・史伝の時代背景を把握し、人間の生き方や運命、歴史を動かす力について考察している。 ・漢文を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。 ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。 ・積極的に文章に描かれた古人のものの考え方、価値観を読み取り、自分の考察を深めようとしている。	○	○	○	10
	8 源氏物語や大鏡、史伝などの作品世界への深化を図る ・『源氏物語』の作品世界に親しみ、「物語」の構成や展開、さまざまな表現を理解するとともに、基本的な文法事項、基本重要語彙を確認、理解することができる。 ・『大鏡』の読解を通じ、「歴史物語」という文学ジャンルへの理解を深めることができる。 ・漢文特有の表現を理解し、我が国の言語文化に与えた影響について理解を深めることができる。 ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈し、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	・物語「源氏物語」「大鏡」 ・史伝「史記」 一人 1 台 端末の活用等		○	・『源氏物語』の作品世界に親しみ、「物語」の構成や展開、さまざまな表現を理解するとともに、基本的な文法事項、基本重要語彙を確認、理解しようとしている。 ・『大鏡』の読解を通じ、「歴史物語」という文学ジャンルへの理解を深めている。 ・漢文を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解し、我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈し、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。	○	○	○	10
	期末考査			○		○	○		1
3 学 期	9 大鏡の作品世界を理解する 思想に親しむ ・『大鏡』の読解を通じ、「歴史物語」という文学ジャンルへの理解を深め、筆者の批判精神を理解することができる。 ・思想に触れることで、思索とその表現について理解を深めることができる。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深めることで、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	物語「大鏡」 思想「論語」「孟子」 一人 1 台 端末の活用等		○	・『大鏡』の読解を通じ、「歴史物語」という文学ジャンルへの理解を深め、筆者の批判精神を理解している。 ・思想に触れることで、思索とその表現について理解を深めている。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文学や思想が生まれた時代について理解し、積極的に解釈を深めようとしている。	○	○	○	8

	1 0	韻文や歌論、思想への理解を深める ・我が国の言語文化としての韻文や歌論を、修辞や背景を踏まえて積極的に解釈することができる。 ・文学や思想が生まれた時代について理解し、積極的に解釈を深めることができる。 ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	・和歌「古今和歌集」 「新古今和歌集」 ・歌論「正徹物語」 ・思想「老子」 「莊子」 「韓非子」 一人1台端末の活用等			○	・我が国の言語文化としての韻文や歌論を、修辞や背景を踏まえて積極的に解釈しようとしている。 ・時代背景を理解することで解釈を深めている。 ・漢文を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解し、我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・文学や思想が生まれた時代について理解し、積極的に解釈を深めようとしている。	○	○	○	15
		学年末考查				○		○	○		1
											合計
											105

評価の方法：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
定期考查を中心に、提出物、小テスト、発表等	定期考查を中心に、提出物、小テスト、発表等	授業への取り組み、提出物、小テスト、発表等

教科	科目	使用教科書・副教材	単位数	対象学年・組
国語	論理国語 (文系)	『論理国語』（筑摩書房）	2 単位	第 3 学年文系クラス

科目の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
「言語文化」「現代の国語」で身につけた知識や技能を踏まえ、実社会において必要となる論理的・批判的な力に結びつく知識や技能を身につけ使うことができるようにする。	実社会や学術的な事柄について、さまざまな観点から情報を収集整理して、文章全体の論理展開を批判的に検討し、新たな観点から自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、内容の解釈を深め自分の考えを広げるとともに、主張を的確に表現しようとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域		評価規準	知	思	態	配当 時数
			読	書					
1 学 期	1 論点を明確にする。 ・言葉と文化の関係を理解し、言葉の働きとその限界を考察する。 ・日常の身近な問題から論証に必要な語彙や語句を習得する。	・評論（言語・現象学 他） 「近代の成立――遠近法」 ・一人 1 台端末の活用 等	○	○	・言葉と文化の関係を理解し、言葉の働きとその限界を考察しようとしている。 ・日常の身近な問題に着目することで、論証に必要な語彙や語句を習得し使用する力を身につけようとしている。	○	○	○	6
	2 自己と社会の関係を意識する。 ・現在の「問題」がどのように提示されているかを理解し、社会につながる言葉の働きを意識する。 ・現実を多面的に捉える想像力を養う。	・評論（時代性・歴史 他） 「ファッションの現象学」 ・一人 1 台端末の活用 等	○	○	・文章を読むことで、身近な題材から問題を発見する力を養おうとしている。 ・さまざまな観点から書かれた文章を読むことで、現実を多面的に捉える想像力を養おうとしている。	○	○	○	6
	中間考査					○	○		1
	3 近代の特色を考える。 ・近代を支える「私」について、自身の認識のあり方や他者の言葉の受け止め方など、検証的に読み進める。	・評論（近代から現代へ） 「『である』ことと『する』こと」 ・一人 1 台端末の活用 等	○	○	・近代を支える「私」について、自身の認識のあり方や他者の言葉の受け止め方など、検証的に読み進めることで、近代の問題点を探り、「自己」という概念の認識を新たにしようとしている。	○	○	○	6
	4 世界的な視野を持つ。 ・自分は社会においてどのような位置にあるのかを意識し、固定的な立場にとどまらない、広い視野に立った世界観を構築する。 ・偏見や先入観にとらわれない説得力ある論証を組み立てる。	・評論（近代から現代へ） 「『である』ことと『する』こと」 （「トリアージ社会」） <期末考査後> 「ファンタジー・ワールドの誕生」 （問題演習） ・一人 1 台端末の活用 等	○	○	・現在の社会のありようを近代化の流れの中で捉え、固定的な立場にとどまらない、広い視野に立った世界観を構築することで自分の考えを深めようとしている。 ・自らの思考の道筋をたどり、世界観を構築することや、感覚や考え方を表す言葉や表現を模索し、偏見や先入観にとらわれない説得力ある論証を組み立てようとしている。	○	○	○	6
	期末考査					○	○		1
2 学 期	5 抽象化と具体化 ・具体から抽象的概念へ、抽象化から具体化へと双方向性の関係性を踏まえ、新たな表現に触れることで、自らの世界観を刷新する。 ・「社会」への多様な視点を理解する。	・評論（文化論） 「虚ろなまなざし」 （「物語と歴史のあいだ」） ・一人 1 台端末の活用 等	○	○	・具体から抽象的概念へ、抽象化から具体化へと双方向性の関係性を踏まえ、新たな表現に触れることで、自らの世界観を刷新しようとしている。 ・「社会」への多様な視点を理解する柔軟な思考、新たな表現に触れ、自らの世界観を刷新し、文章の解釈や、自身の文章表現に生かそうとしている。	○	○	○	6
	6 現代の課題を可視化する ・現代社会が持つ課題を構造的にとらえ、高度に抽象的な表現に触れつつ、自らの世界観を刷新する。 ・事象を多面的にとらえる読み方を理解する。	・評論（哲学・貨幣論 他） 「つながりと秩序」 （「権力とは何か」） （「真実の百面相」） ・一人 1 台端末の活用 等	○	○	・現代における社会システムを成り立たせる権力の在り方について、多様な視点を提供する文章に触れることで、自分の認識を再構成しようとしている。 ・「真実」というテーマを通して「主観と客観」のありかたを理解するとともに、高度に構築された論理的な文章に触れることを通して、自分の文章表現に生かそうとしている。	○	○	○	7
	中間考査					○	○		1
	7 近代を再考する ・日本社会の近代化の過程を述べた評論を読解することで、その独創性や、論の構築、思考の展開を読み取り、自らの表現・構成に生かす。 ・複数の文章や資料を関連させることで、自分の考えを広げたり深めたりすることの意味を理解する。	・評論（記号論・自由論） 「ものとこと」 （「何のための『自由』か」） ・一人 1 台端末の活用 等	○	○	・日本社会の近代化の過程を述べた評論を読解することで、その独創性や、論の構築、思考の展開を読み取り、自らの表現・構成に生かそうとしている。 ・複数の文章や資料を題材に関連させることで、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。	○	○	○	7
	8 記号・コードを基に読み解く。 ・主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する。 ・関連する文章や資料を、書き手の意図との関係において、多面的多角的に評価するとともに、新たな観点から自分の考えを深める。	・評論（平和 他） 「ポピュリズムとは何か」 （「思考の誕生」） ・入試問題演習 ・一人 1 台端末の活用 等 <期末考査後> 共通テスト問題演習	○	○	・主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈しようとする。 ・関連する文章や資料を、書き手の意図との関係において、多面的多角的な視点から評価するとともに、そこで得た新たな観点から自分の考えをより深化させていこうとしている。	○	○	○	6
	期末考査					○	○		1

3 学 期	9 共通テスト対策演習 私大・二次入試問題演習	・入試問題演習 ・一人1台端末の活用 等	○	○	・さまざまな文章に触れ、速読力・問題解決力・記述力を高めるとともに、共通テスト入試問題型の解法にも習熟する。	○	○	○	16
									合計
									70

評価の方法：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
定期考査を中心に、提出物、小テスト、発表等	定期考査を中心に、提出物、小テスト、発表等	授業への取り組み、提出物、小テスト、発表への取り組みやその内容等

教科	科目	使用教科書・副教材	単位数	対象学年・組
国語	論理国語 (理系)	『論理国語』(筑摩書房)	2 単位	第 3 学年理系クラス

科目の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
「言語文化」「現代の国語」で身につけた知識や技能を踏まえ、実社会において必要となる論理的・批判的な力に結びつく知識や技能を身につけ使うことができるようにする。	実社会や学術的な事柄について、さまざまな観点から情報を収集整理して、文章全体の論理展開を批判的に検討し、新たな観点から自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、内容の解釈を深め自分の考えを広げるとともに、主張を的確に表現しようとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域		評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			読	書					
1 学 期	1 論点を明確にする。 ・言葉と文化の関係を理解し、言葉の働きとその限界を考察する。 ・日常の身近な問題から論証に必要な語彙や語句を習得する。	・評論（言語・現象学 他） 「近代の成立」 ・一人 1 台端末の活用 等	○	○	・言葉と文化の関係を理解し、言葉の働きとその限界を考察しようとしている。 ・日常の身近な問題に着目することで、論証に必要な語彙や語句を習得し使用する力を身につけようとしている。	○	○	○	6
	2 言葉と社会の関係を意識する。 ・現在の「問題」がどのように提示されているかを理解し、社会につながる言葉の働きを意識する。 ・現実を多面的に捉える想像力を養う。	・評論（時代性・歴史 他） 「ファッションの現象学」 ・一人 1 台端末の活用 等	○	○	・文章を読むことで、身近な題材から問題を発見する力を養おうとしている。 ・さまざまな観点から書かれた文章を読むことで、現実を多面的に捉える想像力を養おうとしている。	○	○	○	6
	中間考査					○	○		1
	3 近代の特色を考える。 ・近代を支える「私」について、自身の認識のあり方や他者の言葉の受け止め方など、検証的に読み進める。	・評論（近代から現代へ） 「『である』ことと『する』こと」 ・一人 1 台端末の活用 等	○	○	・近代を支える「私」について、自身の認識のあり方や他者の言葉の受け止め方など、検証的に読み進めることで、近代の問題点を探り、「自己」という概念の認識を新たにしようとしている。	○	○	○	8
	4 視野を広げる。 ・自分は社会においてどのような位置にあるのかを意識し、固定的な立場にとどまらない、広い視野に立った世界観を構築する。 ・偏見や先入観にとらわれない説得力ある論証を組み立てる。	・評論（近代から現代へ） 「『である』ことと『する』こと」 <期末考査後> 「ファンタジー・ワールドの誕生」 ・一人 1 台端末の活用 等	○	○	・現在の社会のありようを近代化の流れの中で捉え、固定的な立場にとどまらない、広い視野に立った世界観を構築することで自分の考えを深めようとしている。 ・自らの思考の道筋をたどり、世界観を構築することや、感覚や考え方を表す言葉や表現を模索し、偏見や先入観にとらわれない説得力ある論証を組み立てようとしている。	○	○	○	4
	期末考査					○	○		1
2 学 期	5 歴史と伝統を見つめ直す。 ・農業社会から工業社会、そして情報社会という「社会」観だけではない、多様な視点を的確に捉える。	・評論（文化論） 「虚ろなまなざし」 （「物語と歴史のあいだ」） ・一人 1 台端末の活用 等	○	○	・近代を代表する日本文化論や、比較文化を論じた文章を読むことで、多面的多角的なものの見方、考え方を理解し、自己のものの見方、感じ方、考え方を広げようとしている。 ・作品の文化的背景、その特質を理解することで、他文化を理解し、作品解釈に生かそうとしている。	○	○	○	5
	6 抽象化と具体化 ・具体から抽象的概念へ、抽象化から具体化へと双方向性の関係性を踏まえ、新たな表現に触れることで、自らの世界観を刷新する。 ・「社会」への多様な視点を理解する。	・評論（哲学・貨幣論 他） 「つながりと秩序」 （「貨幣共同体」） （「真実の百面相」） ・一人 1 台端末の活用 等	○	○	・具体から抽象的概念へ、抽象化から具体化へと双方向性の関係性を踏まえ、新たな表現に触れることで、自らの世界観を刷新する。 ・「社会」への多様な視点を理解する柔軟な思考、新たな表現に触れ、自らの世界観を刷新し、文章の解釈や、自身の文章表現に生かそうとしている。	○	○	○	8
	中間考査					○	○		1
	7 近代を再考する ・日本社会の近代化の過程を述べた評論を読解することで、その独創性や、論の構築、思考の展開を読み取り、自らの表現・構成に生かす。 ・複数の文章や資料を題材に関連させることで、自分の考えを広げたり深めたりすること。	・評論（記号論・自由論 他） 「ものごと」 （「何のための『自由』か」） ・一人 1 台端末の活用 等	○	○	・日本社会の近代化の過程を述べた評論を読解することで、その独創性や、論の構築、思考の展開を読み取り、自らの表現・構成に生かそうとしている。 ・複数の文章や資料を題材に関連させることで、自分の考えを広げたり深めたりようとしている。	○	○	○	7
	8 記号・コードを基に読み解く。 ・主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する。 ・関連する文章や資料を、書き手の意図との関係において、多面的多角的な視点から評価するとともに、そこで得た新たな観点から自分の考えをより深化させていこうとしている。	・評論（平和論 他） 「ポピュリズムとは何か」 （「思考の誕生」） <期末考査後> ・共通テスト問題演習 ・一人 1 台端末の活用 等	○	○	・主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈しようとする。 ・関連する文章や資料を、書き手の意図との関係において、多面的多角的な視点から評価するとともに、そこで得た新たな観点から自分の考えをより深化させていこうとしている。	○	○	○	6
	期末考査					○	○		1

3 学 期	9 共通テスト対策演習 私大・二次入試問題演習	・入試問題演習 ・一人1台端末の活用 等	○	○	・さまざまな文章に触れ、速読力・問題解決力・記述力を高めるとともに、共通テスト入試問題型の解法にも習熟する。	○	○	○	16
									合計 70

評価の方法：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
定期考査を中心に、提出物、小テスト、発表等	定期考査を中心に、提出物、小テスト、発表等	授業への取り組み、提出物、小テスト、発表への取り組みやその内容等

教科	科目	使用教科書・副教材	単位数	対象学年・組
国語	古典講読（古文）	『古典探究』（大修館書店）	3 単位	第 3 学年文系クラス

科目の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
「言語文化」「古典探究」で身につけた知識や技能を生かし、我が国の伝統的な言語文化に関して、言葉のもつ働きや、表現について体系的に理解を深めることができる。	我が国の古典を学ぶことを通して、先人のものの見方、感じ方、考え方を理解した上で、自分の思いや考えを広げたり深めたりするとともに、自らの思索を表現できる力を養うことができる。	古語がもつ価値への認識を深めるとともに、現代に至る多様な言語文化に触れることで、生徒自らが新たな興味・関心へと自己の意識を高めていくことで、主体的に学習を進めることができる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域		評価規準	知	思	態	配当 時数
			読	書					
1 学 期	1 古文の基本を再確認する ・古文の世界に親しみ、古文を読むために必要な、文法事項、重要な語彙など既習の学習内容を活用することができる。1 学期中に識別・敬語・和歌などの復習を行う。	・歌論 「杳冠の折句」② (『大鏡』『道真左遷』)(βのみ) ・随筆 『枕草子』『二月つごもりごろに』③ ・一人1台端末の活用 等	○	○	・古文の世界に親しみ、文法事項や語彙など、一・二学年で学習した内容を確認、理解した上で、古文学習に活用している。 ・文章の種類に応じて、内容や構成、展開を的確に捉えることで、文脈に沿った的確な現代語訳をしている。	○	○	○	10
	・言葉の働きについて認識を深めつつ、生涯にわたり古文に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。 ・文章の種類に応じて、内容や構成を的確に捉え、文脈に沿った現代語訳ができる。	・物語 『義経記』『静の白拍子』④(β) ・日記 『十六夜日記』『駿河路』④(α) ・(歌論『無名抄』③) ・入試問題演習(β) ・一人1台端末の活用 等	○	○	・言語表現には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈し、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。	○	○	○	7
	中間考査					○	○		1
	2 物語の理解を深める ・古文における物語の読解を通じ、作者の考え方や文学理念を理解することができる。 ・文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容の解釈を深めることができる。	『平家物語』『忠度都落ち』⑤ ・一人1台端末の活用 等	○	○	・『枕草子』の作品世界に親しむことで、宮廷文化や平安朝の美意識を理解している。 ・積極的に歴史的な背景を踏まえた上で、文章を理解し、的確に解釈しようとしている。	○	○	○	10
	・言葉がもつ価値への認識を深め、生涯にわたって古文に親しみ自己を向上させ、言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	・物語 『大鏡』『三船の才』② 「肝だめし」⑤ <期末考査後> 『蜻蛉日記』『町の小路の女』③ ・一人1台端末の活用 等	○	○	・敬語など文法事項を理解することで、登場人物を整理し、物語の内容や情景、構成や展開を的確に理解し、現代語訳している。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。	○	○	○	10
	期末考査					○	○		1
2 学 期	3 日記文学に親しむ。 ・平安朝の女流日記作品を読解することで、「日記文学」の特徴を理解し、さまざまな表現方法に理解を深めることができる。 ・作品や文章の成立背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。	・日記 『和泉式部日記』『薫る香に』③ 『紫式部日記』『土御門邸の秋』② ・一人1台端末の活用 等	○	○	・平安期の代表的な女流日記作品を読解することで、「日記文学」という文学ジャンルの特徴を理解し、さまざまな表現方法に理解を深めている。 ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈し、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。	○	○	○	11
	4 源氏物語を理解する ・『源氏物語』の作品世界に親しみ、「物語」を構成するさまざまな表現を理解することができる。 ・言葉がもつ価値の認識を深め生涯にわたり古文に親しみ自己を向上させようとする。	・物語 『源氏物語』『須磨の秋』⑧ (「女三の宮と柏木」) ・一人1台端末の活用 等 (入試記述問題対策演習)②	○	○	・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・積極的に歴史的な背景を踏まえた上で、文章を解釈し、的確に解釈しようとしている。	○	○	○	9
	中間考査					○	○		1
	5 源氏物語などの作品世界への深化を図る ・『源氏物語』の作品世界に親しみ、「物語」の構成や展開、さまざまな表現を理解することができる。	・物語 『源氏物語』『紫の上の死』⑥ ・入試記述問題対策演習④ ・一人1台端末の活用 等	○	○	・『源氏物語』の作品世界に親しみ、「物語」を構成するさまざまな表現を理解するとともに、文法事項、重要語彙を確認、理解している。 ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。	○	○	○	10
	・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈し、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。	(『源氏物語』『薫と宇治の姫君』) ・入試記述問題対策演習④ <期末考査後> 共通テスト過去問演習⑦ ・一人1台端末の活用 等	○	○	・『源氏物語』の作品世界に親しみ、「物語」の構成や展開、さまざまな表現を理解するとともに、基本的な文法事項、基本重要語彙を確認、理解しようとしている。 ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈し、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。	○	○	○	10
	期末考査					○	○		1

3 学 期	6 入試問題演習を通して作品を理解する ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。	・大学入学共通テスト対策演習② ・一人1 台端末の活用 等	○	○	・文化的背景について理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文学や思想が生まれた時代について理解し、積極的に解釈を深めようとしている。	○	○	○	9
	・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古文に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	・私大、国公立二次試験対策 ・一人1 台端末の活用 等	○	○	・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・問題演習を通して自己の理解を適切に表現する力をつけようとしている。	○	○	○	15
	学年末考査	・実施せず							
									合計
									105

評価の方法：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
定期考査を中心に、提出物、小テスト、発表等	定期考査を中心に、提出物、小テスト、発表等	授業への取り組み、提出物、小テスト、発表への取り組みやその内容等

教科	科目	使用教科書・副教材	単位数	対象学年・組
国語	古典講読（漢文）	『古典探究』（大修館書店）	2 単位	第 3 学年文系クラス

科目の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
「言語文化」「古典探究」で身につけた知識や技能を生かし、我が国に大きな影響を与えた漢文に関して、訓読法・句法・重要語句について体系的に理解を深めることができる。	漢文を学ぶことを通して、古代中国の様々な思想を理解した上で、自分の思いや考えを広げたり深めたりするとともに、自らの思索を表現できる力を養うことができる。	漢文表現がもつ価値への認識を深めるとともに、現代に至る多様な言語文化に触れることで、生徒自らが新たな興味・関心へと自己の意識を高めていくことで、主体的に学習を進めることができる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域		評価規準	知	思	態	配当 時数
			読	書					
1 学 期	1 漢文の基本を再確認する ・ 漢文の世界に親しみ、漢文を読むために必要な、訓読法、句法、重要な語句など既習の学習内容を活用することができる。1 学期中に語順・句法・重要語句などの復習。	・ 故事・逸話 『十八史略』「水魚の交はり」④ 『十八史略』「死せる諸葛、生ける仲達を走らす」③ （・入試記述問題対策演習①） ・ 一人 1 台端末の活用等	○	○	・ 漢文の世界に親しみ、訓読法、句法、重要な語句など、一・二学年で学習した内容を確認、理解した上で、漢文学習に活用している。 ・ 常に文の構造に気をつけて読み、内容や構成、展開を的確に捉えることで、文脈に沿った的確な現代語訳をしている。	○	○	○	8
	・ 日本語と異なる漢文の構造について認識を深めつつ、漢文の中で比重の高い漢詩の世界を味わう。1・2 学年とは異なる古体詩によって、我が国の言語文化との差異への理解を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。 ・ 文章の種類に応じて内容や構成を的確に捉え、文脈に沿った現代語訳ができる。	・ 漢詩 『詩経』「桃夭」② 『杜甫』「石壕吏」② （・入試記述問題対策演習①） ・ 一人 1 台端末の活用 等	○	○	・ 言語表現には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・ 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈し、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。	○	○	○	5
	中間考查					○	○		1
	2 史伝と思想への理解を深める ・ 漢文における史伝の読解を通じ、作者の考え方や登場人物の生き方を理解することができる。 ・ 文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容の解釈を深めることができる。	『史記』「刎頸の交はり」③ ・ 思想 『韓非子』「侵官之害」② （「母之愛子也」） 『莊子』「夢為胡蝶」① （・入試記述問題対策演習①） ・ 一人 1 台端末の活用 等	○	○	・ 『史記』の作品世界に親しむことで、当時の中国文化や歴史観を理解している。 ・ 積極的に歴史的な背景を踏まえた上で、文章を理解し、的確に解釈しようとしている。	○	○	○	7
	・ 言葉がもつ価値への認識を深め、生涯にわたって漢文に親しみ自己を向上させ、言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	<期末考查後> 『李白』「春夜宴桃李園序」② （・入試記述問題対策演習①） ・ 一人 1 台端末の活用 等	○	○	・ 散文の中に於ける韻文との共通事項を理解することで、場面の内容や情景、構成や展開を的確に理解し、現代語訳している。 ・ 「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。	○	○	○	4
	期末考查	（・入試記述問題対策演習①）				○	○		1
2 学 期	3 史伝の世界を味わう。 ・ 司馬遷の格調高い文章を読解することで、「史伝」の特徴を理解し、さまざまな表現方法に理解を深めることができる。 ・ 作品や文章の成立背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。	・ 史伝 『史記』「呂不韋」⑥ （・入試記述問題対策演習①） ・ 一人 1 台端末の活用 等	○	○	・ 基本句形を習得し、文脈の中で正確な読み取りができている。 ・ 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈し、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。	○	○	○	7
	4 史伝の世界を理解する。 ・ 『史記』の作品世界に親しみ、「歴史」を構成するさまざまな要素を理解することができる。 ・ 言葉がもつ価値の認識を深め生涯にわたり漢文に親しみ自己を向上させようとする。	・ 史伝 『史記』「荊軻」⑤ ・ 一人 1 台端末の活用 等 （入試記述問題対策演習①）	○	○	・ 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 ・ 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・ 積極的に歴史的な背景を踏まえた上で、文章を解釈し、的確に解釈しようとしている。	○	○	○	6
	中間考查					○	○		1
	5 作品世界への深化を図る ・ 『史記』の作品世界に親しみ、「史伝」の構成や展開、さまざまな表現を理解することができる。2 学期中間以降または 2 学期初めから週 1 時間程度の記述演習	・ 史伝 『史記』「荊軻」⑤ ・ 入試記述問題対策演習① ・ 一人 1 台端末の活用 等	○	○	・ 『史記』の作品世界に親しみ、「史伝」を構成するさまざまな表現を理解するとともに、文法事項、重要語彙を確認、理解している。 ・ 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の文化について自分の考えをもつことができる。	○	○	○	6
	・ 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈し、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。	・ 入試記述問題対策演習② <期末考查後> 共通テスト過去問演習⑤ ・ 一人 1 台端末の活用 等	○	○	・ 韓愈の文章に親しみ、「物語」の構成や展開、さまざまな表現を理解するとともに、基本的な文法事項、基本重要語彙を確認、理解しようとしている。 ・ 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈し、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。	○	○	○	7
	期末考查 期末考查後は共テ演習					○	○		1

3 学 期	6 入試問題演習を通して作品を理解する ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、言語文化について自分の考えをもつことができる。	・大学入学共通テスト対策演習⑦ ・一人1 台端末の活用 等	○	○	・文化的背景について理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文学や思想が生まれた時代について理解し、積極的に解釈を深めようとしている。	○	○	○	7
	・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって漢文に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の基本を理解し、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	・私大、国公立二次試験対策⑧ ・一人1 台端末の活用 等	○	○	・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・問題演習を通して自己の理解を適切に表現する力をつけようとしている。	○	○	○	9
	学年末考査	・実施せず							
									合計
									70

評価の方法：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
定期考査を中心に、提出物、小テスト、発表等	定期考査を中心に、提出物、小テスト、発表等	授業への取り組み、提出物、小テスト、発表への取り組みやその内容等

教科	科目	使用教科書・副教材	単位数	対象学年・組
国語	理系古典	なし	1 単位	第 3 学年理系クラス

科目の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
古典を学ぶことを通して、生涯にわたる社会生活に必要な広範な国語の知識や技能を身につけるとともに、わが国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	古典を学ぶことを通じて、先人のものの見方、感じ方、考え方に触れ、自分の思いや考えを広めたり、深めたりするとともに、自らの思索を正確な表現できる力を養う。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、現代に至る多様な言語文化に触れることで、生徒自らが新たな興味・関心へと自分自身の意識を高めていくことで、主体的に学習を進めることができるようにする。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域		評価規準	知	思	態	配当 時数
			書	読					
1 学 期	1 古文・漢文の基本を確認する ・ 古典の世界に親しみ、古典を読むために必要な、基本的文法事項や重要な句法、重要な基本語彙など既習の学習内容を活用することができる。 ・ 文章の種類に応じて、内容や構成を的確に捉え、文脈に沿った現代語訳ができる。 ・ 言葉の働きについて認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	★古文 「杳冠の折句」歌論 助動詞・敬語 ★漢文 「水魚の交はり」 否定形・疑問形・反語形・詠嘆形 等 ※一人 1 台端末の活用等		○	・ 古典の世界に親しみ、古典を読むために必要な、基本的文法事項や重要な句法、基本的語彙など、一学年で学習した内容を確認、理解した上で、古典学習に活用している。 ・ 文章の種類に応じて、内容や構成、展開を的確に捉えることで、文脈に沿った的確な現代語訳をしている。 ・ 登場人物の行動や心理を読み取り、説話や故事・逸話のおもしろさを味わっている。	○	○	○	5
	中間考査			○		○	○		1
	2 作品を通して古典の理解を深める ・ 敬語など基本的文法事項を理解することで、登場人物を整理し、物語の内容や情景、構成や展開を的確に理解し、現代語訳することができる。 ・ 漢詩の決まりを理解し、作品に表現された情景や心情を読み取るとともに、重要句形や重要語彙について計画的に学習することができる。 ・ 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解することができる。 ・ 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。 ・ 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	★古文 「静の白拍子」 助詞 ★漢文 「侵害之官」 受身形・使役形・仮定形・抑揚形・累加形・比較形・選択形等 ※一人 1 台端末の活用等		○	・ 敬語など基本的文法事項を理解することで、登場人物を整理し、物語の内容や情景、構成や展開を的確に理解し、現代語訳している。 ・ 漢詩の決まりを理解し、作品に表現された情景や心情を読み取るとともに、重要句形や重要語彙について計画的に学習している。 ・ 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 ・ 「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。	○	○	○	6
	期末考査			○		○	○		1
2 学 期	3 多様な文章の読解を通して総合的な理解を深める ・ 王朝物語や軍記物語などの作品世界に親しむことで、宮廷文化や平安朝の美意識、中世の武家社会を理解することができる。 ・ 文学性の高い漢詩文の表現を的確に把握しながら、重要句形や重要な基本語彙を丁寧に読み解くことで、場面や人物の心情を理解することができる。 ・ 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉え、また作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈し、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。 ・ 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	★古文 日記ほか 「薫る香に」 敬語表現・識別 ほか ★漢文 「呂不韋」 重要語句「何」「為」「与」等 ※一人 1 台端末の活用等		○	・ 王朝物語や軍記物語などの作品世界に親しむことで、宮廷文化や平安朝の美意識、中世の武家社会を理解している。 ・ 文学性の高い漢詩文の表現を的確に把握しながら、重要句形や重要な語彙を丁寧に読み解くことで、場面や人物の心情を理解している。 ・ 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉え、また作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈し、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・ 積極的に歴史的な背景を踏まえた上で、文章を理解し、的確に解釈しようとしている。	○	○	○	6
	中間考査			○		○	○		1
	4 文章を読み解く活動を通して実践的な理解を養う ・ 多様な文章の読解と問題演習を通して、古文の表現に習熟するとともに、発展的な文法事項、重要語彙を確認、理解することができる。 ・ 多様な文章の読解と問題演習を通して、漢文を読むために必要な文語や訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。 ・ 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。	★総合的な読解力 「紫の上の死」 ◎訓読法・句法の確認と整理 ※一人 1 台端末の活用等		○	多様な文章の読解と問題演習を通して、古文の表現に習熟するとともに、発展的な文法事項、重要語彙を確認、理解している。 ・ 多様な文章の読解と問題演習を通して、漢文を読むために必要な文語や訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 ・ 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。	○	○	○	6
	期末考査			○		○	○		1

3 学 期	5 実践的な演習を通して古典の読解に習熟する ・より実践的、発展的な問題演習に取り組み、古典の理解に習熟する。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深めることで、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。	演習問題に取り組み、選択肢を精査する力と、記述力とを身につける。 ※一人1台端末の活用等		○	・より実践的、発展的な問題演習に取り組み、古典の理解に習熟している。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。	○	○	○	8
									合計 35

※ なお、以上は予定であり、進度の状況によっては変更することがある。

評価の方法：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
定期考査を中心に、提出物、小テスト、発表等	定期考査を中心に、提出物、小テスト、発表等	授業への取り組み、提出物、小テスト、発表等